

株式会社フォトハイウェイ・ジャパン

統合型運用監視システムを BOM for Windowsに全面切り替え。 サービスレベルを維持しつつTCO削減に成功

日本最大級のオンラインアルバムサイトを提供しているフォトハイウェイ・ジャパンは、運用管理システムを刷新。従来の統合型製品から、セイ・テクノロジーズの自立分散型サーバ監視ソフト「BOM for Windows」へ移行した。この移行により、従来とまったく同等の監視レベルを維持しつつ、運用管理システムのランニングコストを大幅に低減することに成功した。通常の企業システムでは運用管理ツールを使ってTCO削減を目指しているが、コスト競争が厳しいB to Cビジネスではすでに、運用管理ツールそのもののコスト削減が新たなテーマになっているのである。



株式会社フォトハイウェイ・ジャパン
カスタマーサービス部 ITプランニングチーム
チーフエンジニア 植松弘樹氏

日本最大級のオンライン アルバムサイトを提供

「写真によるコミュニケーションの可能性にこだわり、写真情報をシェアする場を提供しているのがフォトハイウェイです」と、株式会社フォトハイウェイ・ジャパン 営業企画部 折田静也氏は語る。

フォトハイウェイの事業は、2000年、オンラインアルバムサイト「フォトハイウェイ・ジャパン」から出発した。これは、「見る・遊ぶ・保存する」をテーマに、デジタルカメラで一般消費者が撮影した画像を保存し、公開するASPサービス。コミュニティ、チャット、フォトメールなどのコミュニケーション機能が充実しているのが特長だ。また、2年間無料提供して15万人の会員を集め、2002年に有料化して約1万人の優良会員を確保するという、ビジネスモデルの堅実さでも注目されている。

2002年、携帯電話を対象にサービスを増やしたところ、市場はさらに拡大した。カメラ付き携帯電話を対象とするサイト「フォトこみゅ」の会員数は、1万5千人を突破している。

一方、2000年に立ち上げた法人向けサービスでは、個別ニーズにきめ細かく対応して、多様なビジネスモデルを提案してきた。共通しているのは、フォトハイウェイ・ジャパンのノウハウ、回線、データセンター、サポートスタッフなどの資産を効率よく水平展開しながら、新たなビジネスチャンスを開いていることである。

サーバ台数に比例して 増え続ける運用管理ソフトの ランニングコスト

フォトハイウェイ・ジャパンの事業は、PC向け、携帯電話向け、法人向けという3つの柱がバランス良く成長している。ブロードバンドの普及、カメラ付き携帯電話の大ブレイクも、追い風となっている。しかし人気が高まり、提携の商談が増えれば増えるほど、サービスを支えるサーバの台数は増えるのが宿命である。新規会員を獲得するために新たな付加価値サービスを始めるときにも、サーバ台数が付け加わっていく。

「利用していた運用管理ツールは、サーバ台数に比例して保守料が増えていく料金体系であったため、数十台のサーバを抱えるようになると、運用管理ツールのランニングコストが目立って大きな負担となってきました」と、株式会社フォトハイウェイ・ジャパン カスタマーサービス部 ITプランニングチーム チーフエンジニア 植松弘樹氏

企業概要



名称	株式会社フォトハイウェイ・ジャパン
本社所在地	東京都文京区湯島1-2-5 聖堂前ビル3F
創業	2000年3月
代表取締役	取締役社長 祖山 博史
資本金	9,000万円(2003年6月現在)
従業員数	14人
事業内容	写真の持つコミュニケーション能力に焦点を当てて、オンラインアルバムサイトをPC向けと携帯電話向けに展開。特に、コミュニティ、チャット、フォトメールなどのコミュニケーション機能が充実している。法人向けサービスではきめ細かく個別対応して、インターネットシステムおよびソフトウェアの開発も行う。カシオ計算機が最大の株主。

